

このところ組織拡大を着実に果たしているJR北海道労働組合（JR北労組）であるが、12月10日、自動車支部においてもスタッフ社員の仲間を迎え入れた。JR北労組は大会以降、4人目の組織拡大となった。

## JR北労組がまた組織拡大 自動車支部でスタッフ社員が加入！

組織拡大を果たしたのは、JR北労組の自動車支部厚別分会。自動車支部での組織拡大は大会以降初めてであるが、JR北労組全体では4人目となり、3ヶ月続けての組織拡大となった。

JR北労組は「新しい仲間が増えるたびに楽しく明るい作業環境が創られ、JR北労組運動に魅力と共感が広がっている中で加入が定着化しつつある」として、更なる組織拡大にむけて、全組合員の総力を挙げた取り組みを訴えている。

JR連合に結集する全国81,000人の仲間は、今回加入した組合員を心から歓迎するとともに、JR連合として更なる組織拡大と民主化闘争の完遂に全力を挙げて取り組んでいくことを明らかにする。

## 貨物の職場では警察から「警告」も!?

現在、北海道ではJR北労組と併せて、貨物鉄産労北海道地区本部でも組織拡大が着実に進んでいる。12月2日には、札幌機関区に勤務する40歳の主任運転士が日貨労を脱退し、貨物鉄産労に加入を果たしたところである。

ところが今月9日、乗務を終えたこの組合員が**職場で日貨労の役員が待ち構えていたことに「恐怖」を感じ、同組合員からの連絡を受けた貨物鉄産労の役員が警察に通報するという事象が発生。その場に警察官2人が駆けつけて、日貨労の支部に対して警告を行った模様**である。

貨物鉄産労は「これが異常なことであることは誰にでも分かる。まさに職場が無法地帯化しているのではないかと疑問を呈するとともに、同組合員が運転士であることから「恐怖」を感じるようであれば、「安全確保の観点から対応を検討しなければならない」と厳しく指摘している。

JRは、わが国の社会・経済を支える基幹インフラであり、安全・安定輸送の確保は最大の使命であることは言うまでもない。安全・安心な鉄道をつくるためにも職場の民主化を更に進めていかなければならない。

**民主化闘争の完遂に取り組むJR連合に結集しよう！**